

①2025年度指導方針とコーチングに関する施策（1/3）

校長 谷口 史雄

1. スクールの指導方針

- (1) 基本は全て「生徒の為に」。**「何事も安全が最優先」。**
- (2) 生徒にラグビーを楽しんでもらう。試合に負ければ生徒に悔しがってもらい、次にその反省点を活かせるように取り組みしてもらう。
- (3) 当スクールのモットーは子どもたちに合ったラグビーを、レベルに応じて楽しむこと。ゲームでは勝ちにこだわらず、「全員レギュラー」の考えのもとに指導している。これは1987年の結成以来36年間、一貫して変わっていない（HPに記載）→基本的には試合に勝つ事を目標とするが、単なる勝利至上主義（例：1軍、2軍等を分ける、固定した生徒しか試合に出さない、試合に勝つ為だけの絞ったスキルしか教えない等）ではなく、あくまで全員参加により全力を出し、仲間と助けあい、勝利を目指す。
- (4) 毎年、高学年時に予定されているヒーローズカップへの出場は、従来と同じくカテゴリーとして関係する生徒の意思に基づき、コーチ間でもよく協議した上で出場を決める。年度の最終目標とはしない。
- (5) ラグビーを大好きになってもらい**「杉並でラグビーやって良かった、楽しかった。また中学で、そして高校でも続けたい」**と思ってもらう事を大きな目標とする。
- (6) カテゴリー制の継続。以前と比較すれば組織は大きく人数は増え、学年単位にて試合、練習を行う機会は増えているが、カテゴリーで一緒に出来るところは一緒に行く。理由は先輩、後輩の人間関係はラグビーに限らず生徒達にとっては今後も続くことであり、ラグビーの場合、その人間関係はとても重要であり、コーチ同士の人間関係も重要であると考え。
- (7) **杉並らしさ**（別添資料ご参照）を常に大事に意識しながら活動する。
- (8) ラグビーの5憲章「品位・情熱・結束・規律・尊重」を常に意識して活動する。

①2025年度指導方針とコーチングに関する施策（2/3）

2.コーチングに関する目的、心得、施策(順不同)

（１）基礎体力、基礎プレーの習得

小学部では中学進学以降の色々な応用にも対応できる基礎体力、基礎プレーを身に付ける。（基礎体力、基礎プレーとはあくまで試合で活かせるもの）

（２）ラグーマン、ラグールとしてラグビーの５憲章、そしてラグビー精神に基づいた態度、姿勢を習得する

①元気な大きな声でグラウンド、コーチ、仲間、保護者、相手チーム等に挨拶する。

②時間を守る（キックオフは絶対に守らなければいけない。待ってこない）

その他、社会生活の基本である常識的なマナーを身に付ける。

（３）基本的にプレーヤーズセンタードなコーチングを意識する。

（４）大会に応じた、または杉並自身で取り決めたサイレントマナーの継続。

（５）活動においてコーチは自分の子供だけではなく、担当するカテゴリーの生徒全員に平等にコーチングする。従ってコーチングに必要な資格を出来るだけ習得する。コーチ、レフリー、セーフティーアシスタント資格の取得、ブラッシュアップ。セーフティーアシスタントは全員が夏合宿までには取得する事を目標とする。活動中は コーチと生徒の関係（親子関係ではない）として接する。

①2025年度指導方針とコーチングに関する施策（3/3）

- （6）活動の始まりのコーチMTGは重要な事を話す機会、活動前の当日のグラウンド使用上のルール、AED、トイレ、危険場所等の安全面、目的や心合わせの他、極めて重要な事項を話しているのに遅れない。コミュニケーションの点からも必要。

コーチは愛する生徒達の活動の為、グラウンド内外問わずMTG等のコーチ間のコミュニケーションを大事にする。内容、状況によっては、とことん議論する。

- （7）生徒を注意する場合、状況を考え解決させることがコーチとして最優先することで、単なる頭ごなし＊に注意することは厳禁

＊例；なんでできないのか、もうやめれば、バカ等々・・・

- （8）安全対策の観点から昨年度以前からの継続事項

医師の御意見も踏まえ、お菓子に限らず食べ物をグラウンドで大人から子供、また子供から子供に渡す事は、食物アレルギーの子供がいて事故に繋がる可能性があるのを止めている。これからの時期、熱中症対策の塩分タブレット（アレルギー反応が出るゼラチンを含むものあり）に関しても、各自で用意して摂取する。危険回避の点から実施。

- （9）今年度から小学部HCを置く

最近の生徒数増加に伴い、コーチングを更に細かく把握、実施したい為、小学部HCを置き小学部のコーチング

体制を統括する役目を担う。そのサポート役として従来からのカテゴリーごとにHC補佐がおり、HC補佐を統括する役目も担う。